

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立厳木小学校
1 前年度 評価結果の概要	・児童司会による児童会行事を行い、児童の主体性を育む活動に取り組んでおり、児童自らが学校を動かしているように意識をもたせることで、学校に活気があふれ、児童の自信に繋がっている。この活動は、来年度の新しい厳木小学校でも生かしていきたい。 ・校内研究については、これまで研究してきたことを踏襲し、「自ら考えて伝え合う言語活動の在り方を探る」「自己評価と見取りを学びに生かす授業づくり」について研究を進め、授業実践をした。これまで積み重ねてきた「厳木小学校スタイル」の授業実践を続けていくことで、子どもたちの力をよりいっそう伸ばすことができると考える。 ・教科関連的な視点で単元づくり・授業づくり・環境づくりを行うことで、効果的な教育課程を実施することにつながっている。 ・「学校大好き」「家庭大好き」「地域大好き」の児童を目指し、地域、家庭と連携を固めながら、教育活動を行ってきた。来年度、さらに地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。 ・地域人材の豊かな知識や経験を生かした支援により、体験からの学びを充実させることができた。児童の課題意識に応じた体験学習や郷土の課題解決のために自分や地域住民でできる持続可能な取組などを充実させていく必要がある。来年度は、お互い

2 学校教育目標	夢に向かって 自ら学び続けようとする 子どもの育成 ～地域とともに未来を拓く厳木小中学校～
----------	--

3 本年度の重点目標	令和6年度の重点目標 (1) 小中連携・学力向上……小中併設校として、9か年の学習内容や児童・生徒の発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。 (2) 個に応じた教育の充実……児童・生徒一人一人の長所や強みに着目して、多様なニーズを有する子どもたちに対応した学びを実現させることで、ウェル・ビーイングの向上を図る。 (3) 社会性の育成……児童・生徒一人一人に出番や役割を設け、活躍する場面を設定し、承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

重点取組				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○唐津の学びスタイルチェックシートに示した学びの実現状況が2.8以上の教師80%以上	・学期末に唐津の学びスタイルチェックシートを記入し、指導法を振り返る。課題については重点項目として全職員で共通理解し、改善を図る。	A	・学年末の唐津の学びスタイルチェックシートによる学びの実現状況は全項目では平均3.0であった。また指導の個別化についての項目も平均3.0と成果指標を上回った。今後も学習内容の確実な習得に向けて、児童が自分の得意分野や課題点を自覚し、学習進度や学習到達度などに応じ、自らの学習を調整しながら取り組むことができるような手立ての工夫を全職員で考え、実践していきたい。	A	・個々の児童の習熟度に応じた取り組み大変と思うが、継続して取り組んでほしい。 ・学習内容の取得に向けて個人差はあると思うが、継続して取り組んでほしい。	学力向上コーディネーター 研究主任 研究副主任
	○主体的・対話的で深い学びの展開 ○主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫と家庭学習習慣の確立	○話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていると答える児童85%以上 ○児童アンケートで「家庭での学習時間(10分×学年+20分)を集中して取り組めた」と答える児童の割合80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動と振り返り活動を行う。振り返り活動で出た児童の感想を次時の学習活動に生かす手立てを取る。 ・児童自身が学びをメタ認知できるように振り返りの場を設定し、唐津の学びのスタイルに沿った授業展開ができるようにする。	A	・グループやクラスで話し合う活動を通して自分の考えを広げたり深めたりしていると答えた児童は85%であった。 ・年間を通して、話し合い活動の充実に向けて場の設定の工夫や時間の確保ができた。今後も話し合い活動の充実に向け、継続して取り組んでいきたい。 ・目標とする家庭での学習時間を達成している児童は76%であった。家庭学習の充実と習慣化に向けて各家庭にも呼びかけるとともに、家庭学習課題の内容についても職員間で共通理解を図っていききたい。	A	・グループの中で自分の意見を持ち、皆と考へ、そして周りに伝えることのできる力を(発表できる力)を身に付けてもらいたい。 ・児童が計画的に家庭学習に取り組めるように課題の工夫や自学など考えてあることはよいことだと思う。 ・自分の考えを表現するのは難しいと思う。言葉による表現方法など取り組んでほしい。家庭学習の定着により進めてもらいたい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事やなやみほの活動に積極的に参加し、異学年との交流を楽しむ児童80%以上。 ○道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・月1回のおひさま朝会の実施 ・人権擁護委員会による人権教室の実施 ・地域の方と連携した体験活動の実施 ・人権・同和教育に関する校内研修等の実施 ・実行委員会や委員会、クラブ、集会などの場において、それぞれの個性や立場を認め合える活動を仕組む。	A	・道徳や人権教育に関するアンケートで、肯定的な解答をした児童は、91%で、目標を達成することができた。 ・月1回のおひさま朝会は、全職員が担当を交代して実施することができた。 ・小中合同グリーン作戦と、小中合同人権集会を実施できた。 ・学校行事や縦割り班の活動に肯定的な解答をした児童は、93%で、目標を達成している。縦割り班活動で、それぞれの個性や立場を認め合える活動を実施できた。	A	・クリーン作戦や人権集会を小中合同でできたのは、合同校になったメリット。これからも続けてほしい。 ・縦割り班の活動を計画に設定してあることは良いと思う。 ・道徳や人権教育などで個々の人権に対する意識を高めていってほしい。	人権・同和教育担当 道徳推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○道徳授業や人権集会、特別活動等を効果的に活用し、いじめを生まない風土や集団づくりに取り組む。 ○生活問題協議会、アンケートによるいじめの早期発見・早期対応に取り組む。【保護者アンケート90%】	・なかよしアンケート(毎月)を実施し、実施後の丁寧な聞き取りと指導を行い、結果を全職員で共通理解する。支援が必要な児童については全職員で対応する。 ・生徒指導協議会で、気になる児童について全職員で共通理解し、対応を考える。 ・OUアンケートを実施し、その結果を生かした指導を行う。	A	・人権集会(おひさま朝会)を実施することによって、児童に人権の意識を持たせることができた。 ・小中合同で人権集会を実施することができた。 児童生徒主体で、会の計画・準備・進行を行った。6年生が授業で学習したことを基に厳木小学校人権研究宣言を作成することができた。 ・毎月なかよしアンケートを実施し、該当部分に記入のある児童生徒については、個別に聞き取りを行い、いじめの早期発見に努めることができた。 ・毎月の生徒指導協議会を小中合同で行うことにより、気にしなければならない児童生徒の情報共有を行い、生徒指導を円滑に実施することができた。 (保護者アンケートの結果は 94%)	A	・小4・6年と中学生とが共に活動することにより、いわゆる「中1ギャップ」が軽減され、スムーズな中学生生活が始められると思う。 ・毎月のアンケートにより、スピーディな対応がなされることはよいと思う。また、小中合同の協議会により、情報共有され、全職員で対応指導することよいことなので今後も続けてほしい。 ・人権教育の取り組みは大変だと思う。学校や社会でも必要事項だと思うので取り組み世界の事情に目を向けて考える子どもに育ってほしい。	教育相談 生徒指導担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・キャリア教育に取り組み、それぞれの未来への思いを学級で共有することにより、いじめの早期発見に努めることができた。 ・児童が主体的に取り組む児童会行事を行い、児童の主体性を育む。	A	・アンケートで、「将来の目標や夢をもっている」に肯定的な解答をした児童は、91%で、目標達成している。 ・平和集会、体育大会、全校レクなどの学校行事では、キャリア教育と関連づけながら、実施することで、より効果的な活動にすることができた。 ・学級活動等で、児童の主体性を尊重し、自己肯定感が高まるような、声かけや支援を継続して行うことができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした児童は91%で目標を達成できた。	A	・アンケート結果が素晴らしい数字で驚いた。夢の実現のために、何を学ぶのか、どう学ぶのかを結びつけると学力の向上につながるのではないかとと思う。 ・将来の目標や夢を語るように行事などを通して子供に気づかせてほしい。	特活部
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・体育的行事を通して、「運動が大好きな子ども」を育てる。 ・運動能力向上につながる動きや遊びを授業の中で児童に紹介し、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。	A	・持久走大会に向けて、昼休みにジョギングタイムを設定したり、頑張りカードを配布したりすることで意欲的に運動に取り組むことができた。 ・各クラスにサッカーボール、ドッチボール、大なわを配布したり、グローブやバット、野球ボールを貸し出ししたりすることで、積極的に休み時間の間に運動場での外遊びをする児童が多かった。また、低学年は、運動場の道具を活用し遊ぶ姿が見られた。 ・雨の日には、学年部ごとの体育館利用を行うことで、雨の日でも体を動かすことができた。 ・元気チェックを毎週行っているが、朝食を食べていない児童が数名固定化している。食べている児童も、食事の内容に偏りが見られたため、食品の持つ栄養や1日の摂取量等、食事の大切さを知る場を設定しながら、食生活の改善が図られるよう指導を行った結果、食生活に対する児童の意識が高まってきた。今後も継続して指導を行っていききたい。	A	・体力づくりは食生活は重要だと思う。家庭と連携を取って食事の大切さを子供に自覚してほしい。 ・朝食を食べて来ない児童がいることは気になる。	保体部
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●学校は、「健康に良い食事」を意識するよう呼びかけたり、振り返る場を設定したりすることで、望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成に取り組む。【児童アンケート85%以上】	・「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を図るために、毎週水曜日に元気チェックで生活習慣を振り返らせる。保護者に生活振り返りシートにコメントしてもらう。	A	・本校においては自分用のスマートフォンを所持している児童生徒が多みられる。アンケート結果から保護者とゲーム、スマートフォンの利用時間について約束を決めており、かつきちんと守れているという児童は全体の約80%である。約束を決めていても形骸化している家庭も多くみられる。今後も学級活動や道徳の時間を利用して、情報モラル教育や、目や姿勢に対する影響などを指導し、長時間使用しないように指導を継続していききたい。 ・毎週実施している「げんきチェック」の結果を基に指導を行った結果、児童が自分で生活習慣を振り返り、よりよい生活に向けての意識が高まってきた。	B	・スマホゲーム等で睡眠不足の子もいるようなので、家庭と学校が連携して指導をしてほしい。 ・スマートフォンによるゲームや情報拡散があることを知らせることは大切なことだと思う。大人の世界でもトラブルが生じている。家庭、学校で約束したことは守るようにしてほしい。便利であるが人権侵害となることもあると思う。	
	○望ましい生活習慣の形成	○家庭で約束したスマートフォン・ゲーム時間の遵守と「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いた児童80%以上	・授業において睡眠やスマートフォン・ゲーム時間を守ることの大切さを伝える。 ・生活アンケートを定期的に実施し、規則正しい生活習慣の意識を高める。	A	・本校においては自分用のスマートフォンを所持している児童生徒が多みられる。アンケート結果から保護者とゲーム、スマートフォンの利用時間について約束を決めており、かつきちんと守れているという児童は全体の約80%である。約束を決めていても形骸化している家庭も多くみられる。今後も学級活動や道徳の時間を利用して、情報モラル教育や、目や姿勢に対する影響などを指導し、長時間使用しないように指導を継続していききたい。 ・毎週実施している「げんきチェック」の結果を基に指導を行った結果、児童が自分で生活習慣を振り返り、よりよい生活に向けての意識が高まってきた。	B	・スマホゲーム等で睡眠不足の子もいるようなので、家庭と学校が連携して指導をしてほしい。 ・スマートフォンによるゲームや情報拡散があることを知らせることは大切なことだと思う。大人の世界でもトラブルが生じている。家庭、学校で約束したことは守るようにしてほしい。便利であるが人権侵害となることもあると思う。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・マイ定時退勤日を設定し、1週間のうち必ず1日は定時退勤をするようにする。 ・時間外勤務時間調査等をこまめに行いながら、勤務の適正化がよりよい教育効果に繋がることが伝え、タイムマネジメントの習慣化を図る。 ・教材をデータベース化したり、校務事務の共有化したりすることで、事務作業の時間を軽減する。 ・チームワークを生かし、職員間で連携・協働しながら業務を行うようにする。	B	・マイ定時退勤日を設定はするものの実行率は50%であった。 ・月により、時間外勤務の集計結果に差が見られるが、職員各自が時間外勤務の上限を意識し、業務の取り組み方を考えることにより、勤務時間の調整ができるようになってきた。 ・職員間で声掛けを行うことにより、分掌部が連携し協働し、業務を行うことができた。	B	・定時退勤できるよう職員間で連携してほしい。 ・管理職が声掛けをすることでスムーズに退勤しやすくなると思う。	教頭 教務
	○職員の心身の健康	○年間休取得15日以上を目指し、パースディ休年の完全取得を目指す。	・年休取得について呼びかける。	B	・年休取得についての呼びかけのもの、なかなか年休取得に結びつかなかった。 ・職員相互のコミュニケーションを図り、職員のメンタルケアを図ることができた。	B	・今年度は統合したこともあり、教員も業務に追われていたことと思う。来年度は、ぜひパースディ休年を完全取得してほしい。	教頭 教務
●特別支援教育の充実	○支援体制の確立と教員の専門性や意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85パーセント以上	・全職員を対象とした特別支援教育に関する研修会を年3回行う。 ・配慮を要する児童について随時ケース会議を行い、支援の在り方を協議する。 ・必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門機関と連携し、よりよい支援に繋ぐ。	A	・特別支援教育に関する研修会を3回実施することができた。 ・配慮を要する児童について随時ケース会議を行い、児童に応じた支援の在り方を協議することができた。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、支援を要する児童の支援について共通理解を図ることができた。	A	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと情報共有し、その子にあった教育や関わりをしてみたい。 ・支援を必要とする児童が(グレーゾーンを含む)あまりに多く、支援員の人数が少ないと思う。	特別支援教育

本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育 ○地域人材の活用と、地域での体験活動の推進	◎地域と連携を図りながら郷土を誇りに思う児童の健全育成 ○積極的に地域人材を活用し、地域での体験活動の推進する中でふるさとを愛する心と主体的・創造的に活動できる力を育む。	◎地域の人・もの・ことを活用した体験型学習 全学年年間3回以上 【各学年の体験活動実施3回以上】 ○地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答90%以上	・授業参観などを地域の方々にも参観していただき、意見をもらう。それを基に学びを充実させる手立てを工夫していく。 ・地域の方々へ学習の成果を発表する機会を設け、学んだことについての考えや思いを伝える。	A	・稲作体験やそばの収穫、そば打ち体験など多くの活動において、地域の方々ゲストティーチャーとして学習に関わっていただき学びを充実させることができた。 ・地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答は100%であった。	A	・教室ではできない学びの場は児童には必要と思う。子どもたちに様々な体験をさせてほしい。 ・地域と関わりをもつことはとても良いことだと思う。	教務 教頭
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○学校だよりを月1回以上発行し、学校ホームページの更新を定期的に行い、学校教育の情報を公開する。	・学校だよりの発行を月1回以上発行し、学校ホームページの更新を常時更新することにより、学校教育の情報を多方面に発信する。	B	・学校だよりは定期的に発行できた。 ・ホームページの更新があまりできなかったの 下期は更新する回数を増やし、学校教育の情報を多方面に発信するようにしたい。	A	・学校での様子、活動がわかり、良かった。 ・学校の様子を知ることができていてとてもよいと思う。	教頭

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・施設一体型小中併設校として、「知・徳・体の調和のとれた学校」「楽しさ、元氣、創造力に満ちた学校」「地域に信頼される学校」を目指し、教育活動に取り組んできた。今後も小中連携を図り、社会で活用できる学力と生活力を9年間で身に付けさせるよう、学習内容や児童の発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高めていきたい。 ・学校教育目標の達成のため、地域、家庭と連携を図りながら、教育活動を行ってきた。特に、地域の方々には、様々な場面で学校教育に関わっていただき、体験から学びを充実させることができた。今後も児童の課題意識に応じた体験学習や郷土の課題解決のための取組を行い、地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。 ・開校の1年目であったため、様々な取組を行ったが、時間外勤務時間の縮減はなかなか実現しなかったが、職員の働き方改革についての意識は、高まってきている。今後も、職員が心身共に健康に働くことができるように、組織力を生かした改善策を探っていく。
----------------	--

達成度（評価）

- A：十分達成できている
- B：おおむね達成できている
- C：やや不十分である
- D：不十分である